

令和4年度岐阜県青少年美術展青年部の選定評

絵 画	<p>作品数は昨年より減ったが、全体のレベルが底上げされ質が上がっているように感じた。傾向としては、マグリットをはじめとしたシュルレアリスム風の作品が多くあった中にも積極的に画面を構成し、対話しながら描き進められた作品もみられ力強さを感じた。既存の著作物の力を借りずに、自分の中に明確な主題をもって表現したい。</p>
デザイン	<p>平面デザインに大切なことは、まず視覚によるメッセージの伝達である。応募作品は十分な描き込みや適切な処理を行っていたが、テーマとイメージが合っていないものや、不明なものもあった。もうひとつ大切なことは、表現の幅を広げ、訴求力を上げることである。今回の審査では、その点関心を持つことが出来た作品もあった。</p>
立体造形	<p>バラエティに富んだいろいろな表現方法が見られた。身近な素材を使用したり、既製の材料を組み合わせる作品にしようとする工夫が多くあった。全体的に、作り込みについてはやや弱い印象を受けた。最初のアイデアを大事にしながらも、途中の変化を恐れずむしろそれを生かして、美しい形を最後まで目指して欲しい。</p>
書 道	<p>漢字の作品の応募が多数を占め、そのうちの大半が臨書作品であった。特に多字数の作品に秀作が目立った。仮名は細字の臨書が多く寄せられ、篆刻も応募があった。漢字仮名交じりの作品も見応えのある作品が出品された。若干表具の状態が悪いものや題名のつけ方に誤りがあるもの等があり、出品の際に注意して頂きたい所である。</p>
写 真	<p>昨年より応募総数が20点近く増加した。数だけでなく、全体のレベルも向上したように感じる。被写体としては、身近な友人よりもペットや花々などの作品が目についた。上位に入賞するためには被写体に寄りかかるのではなく、工夫して撮ることが必要である。組写真は作者の視点が鍛えられるので、挑戦してみたい。</p>